

第3回 利賀ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場 議事要旨

平成28年3月29日（火）16:00～17:30
庄川生涯学習センター1階多目的ホール

【出席者】

富山県知事、高岡市長、射水市長、砺波市長、小矢部市長、南砺市長

【主な意見】

- 利賀ダムは、庄川水系河川整備基本方針で150年に一度発生する洪水に対応できる治水安全度を確保するということで計画されており、沿川住民の安全のために治水安全度が下がることがないようにお願いしたい。
- 河川整備計画レベルの安全度は30～40年に一度発生する規模で、利賀ダムは150年に一度発生する規模に対応できる規模での計画であることから、代替案との比較において、仮に評価がコストも含めて同等になった場合には、安全度の観点で利賀ダムのほうが有利になるものと思っている。
- これまでの工事進捗も約4割となっており、沿川自治体の意見も十分に踏まえて、速やかに進めていただきたい。

- ダムの所在市町村長としては、検討されている以外にも利賀ダムの効果があると感じている。下流域の安全を守る治水、流量の維持とか利水も大事であるが、ダムというものが景観やさまざまな観光的な道路ルートに大きな成果、効果をもたらすものと期待している。
- 総合的にゼロベースで検討されたことは非常に意味のあることで

ある。

○利賀ダムに期待するところが大きいため、スピード感を持って、ぜひ取り組んでいただきたい。

○庄川の滞筋を見た時に、急流河川が大変な川であると感じた。今後、我々も勉強させていただき、住民の皆さんにもお知らせしていきたい。

○平成 26 年 7 月 20 日に、砺波市でも時間 120 ミリの降雨があった。最近では時間 100 ミリを超える降雨が発生するため、その対策として、少しでもいろいろな対策を講じることが大切である。

○庄川にはたくさんのダムがあるが、基本的には発電のダムである。容量の買い取りの話もあるが、現実的には、発電の状況が非常に厳しい中で、可能性としては非常に低いのではないかと思う。本川で治水機能の確保が限定される中、支川で治水機能を確保するというをもっとアピールすべきである。

○工業用水が暫定水利権となっていることは正常な形ではないため、恒久にするということも忘れてはいけない視点だと思っている。

○河口部で河道掘削をしても、時間が経てば堆積していくと思われ、抜本的な解決にならないのではないかと感じており、沿川住民の方々にとっては、不安を拭い去ることができないと思われる。

○和田川下流放水路案も示されているが、このルート沿線や河口は住宅密集地である。また、河口部では漁業が盛んに行われていることから大変な影響が想定されるため、周辺環境、地域に対しての経済効果なども加味して判断いただきたい。

○平成 16 年洪水時には避難勧告が出され、多くの住民が不安な夜を過ごしたり、昭和 9 年洪水でも大きな被害を受けていることから、水害対策に関して、地域住民の意識が非常に高い地域である。また洪水に対する安全性が早く確保されることを強く願っている。

○今後の検証について、しっかり進めていただきながら、できるだ

け早く判断していただければと思っている。

○小矢部川流域において、平成 20 年に大変な集中豪雨が発生し、もう少しのところではん濫するといったところであった。そのようなことを考えると、早期の利賀ダムの完成を望んでおり、できるだけ早く次の段階に進んでいただけるように切望している。

○昔から氾濫原ということで、水との戦いをしてきており、その都度いろいろな対応をしていただいている。今回の説明をお聞きし、治水対策として本当にいろいろな方策があると改めて感じた。昨今の気象状況などをみると、抜本的、恒久的な対策を講じることが必要であると思っている。

○抜本的に地域住民が安心できるような方策をしっかりと検討いただき、対応していただくことが肝要であり、そのためにも次のステップへ早く進んでいただきたい。

○利賀ダムは 150 年の一度の降雨にも対応できる施設計画であり、30 年、40 年の代替案と比較して、利賀ダムが仮に少しコストがかかるからといって、やはり代替案が良いとされるのは困る。その点は公平に見ていただきたい。最近では異常気象で集中豪雨が多く発生している。国土交通省では 1,000 年に一度の降雨に対し、避難等を含めて議論されていることから、その点はすごく大事な点だと思っている。

以 上